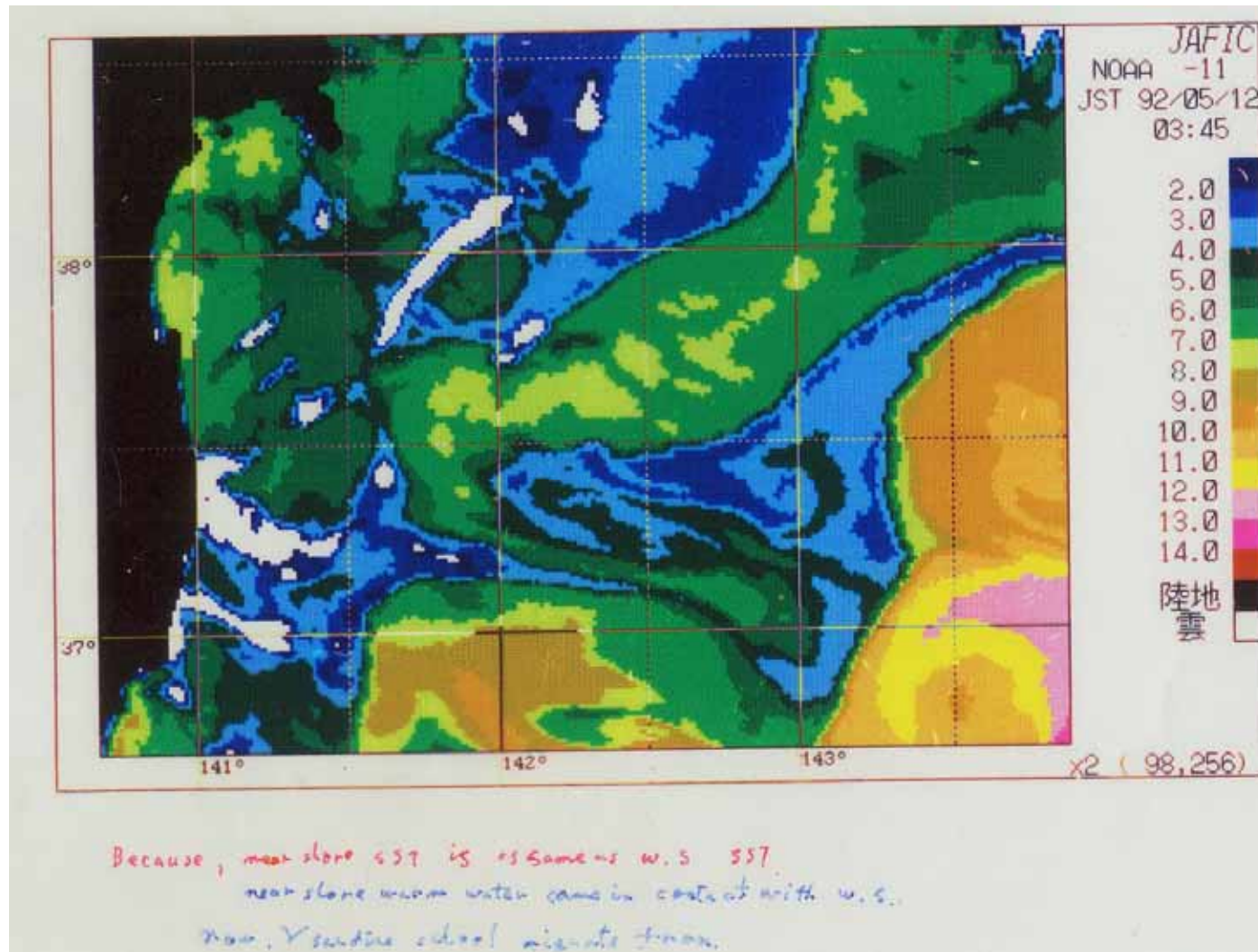
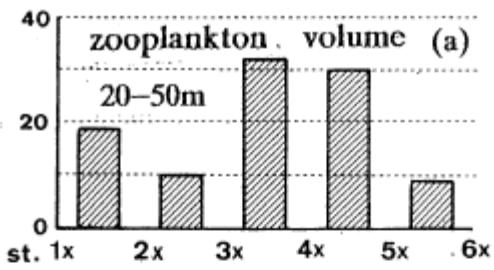




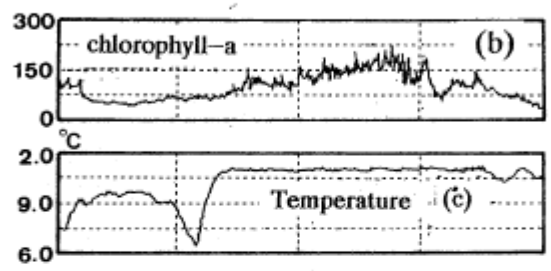
航空機からのマイワシ群
(ジェット機の翼の形 この群右から左へ移動)



マイワシ 沿岸(距岸100km内)へ回遊 帯状暖水を利用
 理由 沿岸暖水と暖水ストリーマと同水温
 暖水ストリーマと沿岸水と接点

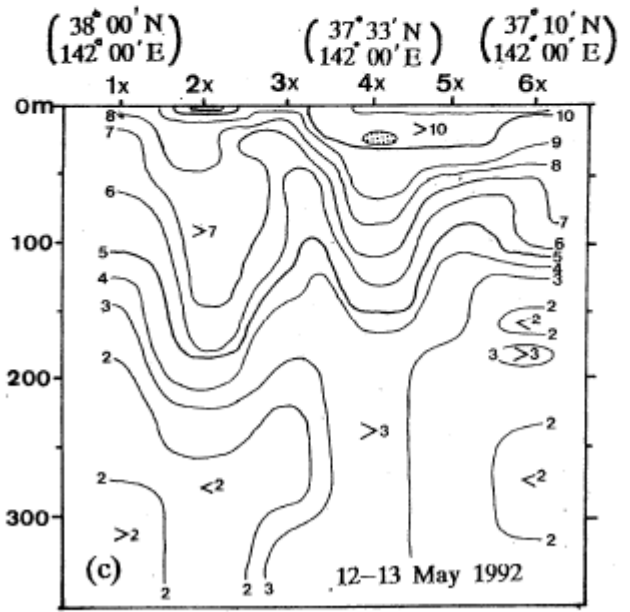


動物プランクトン量多い



植物プランクトン量多い

水温高い



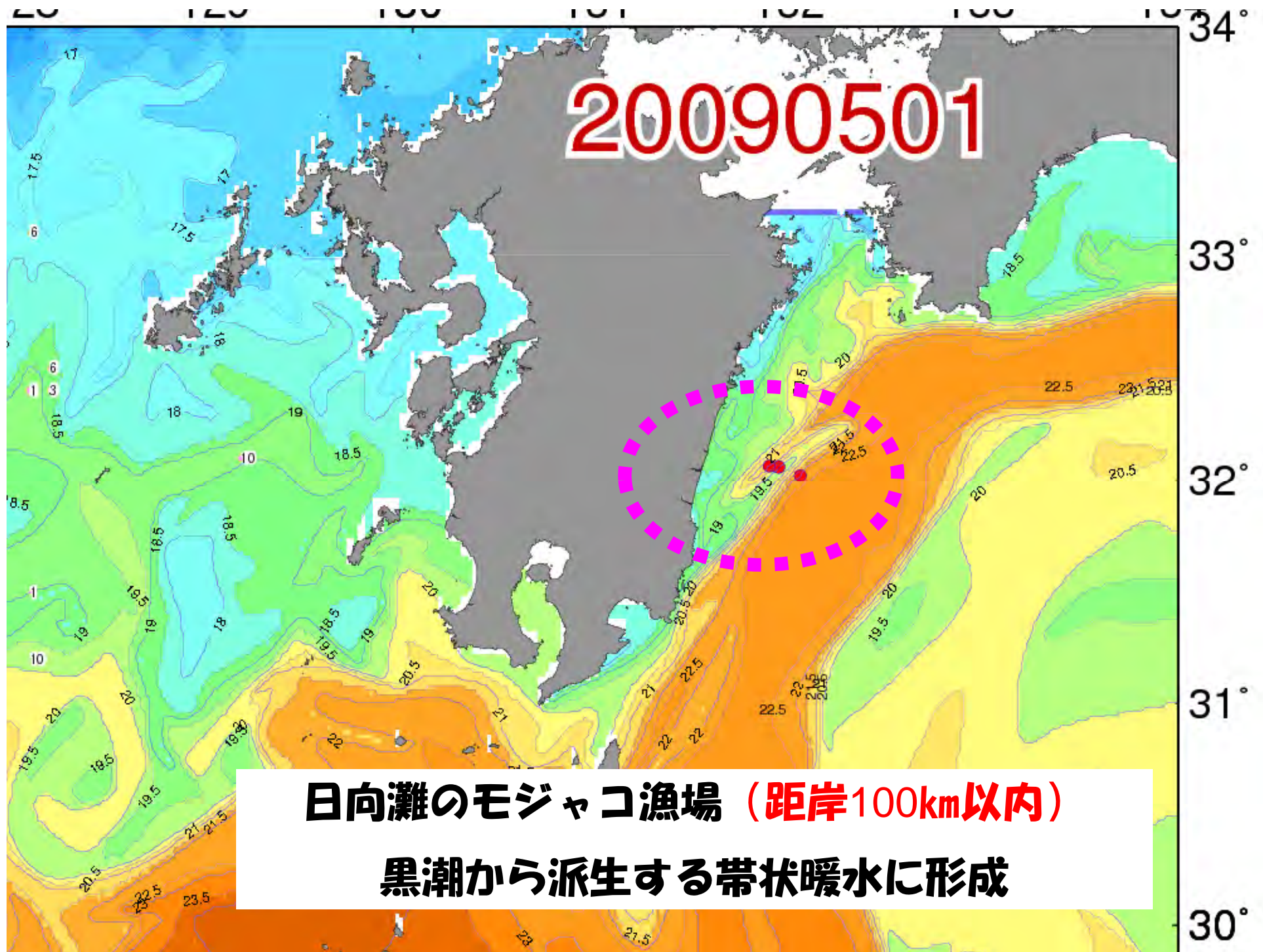
水温断面図
(10°C以上の暖水の
水深30m)

暖水ストリーマにおける水温・植物プランクトン・動物プランクトン
・マイワシ群との関係 (1992年5月12日~13日)

20090501

日向灘のモジャコ漁場 (距岸100km以内)

黒潮から派生する帯状暖水に形成



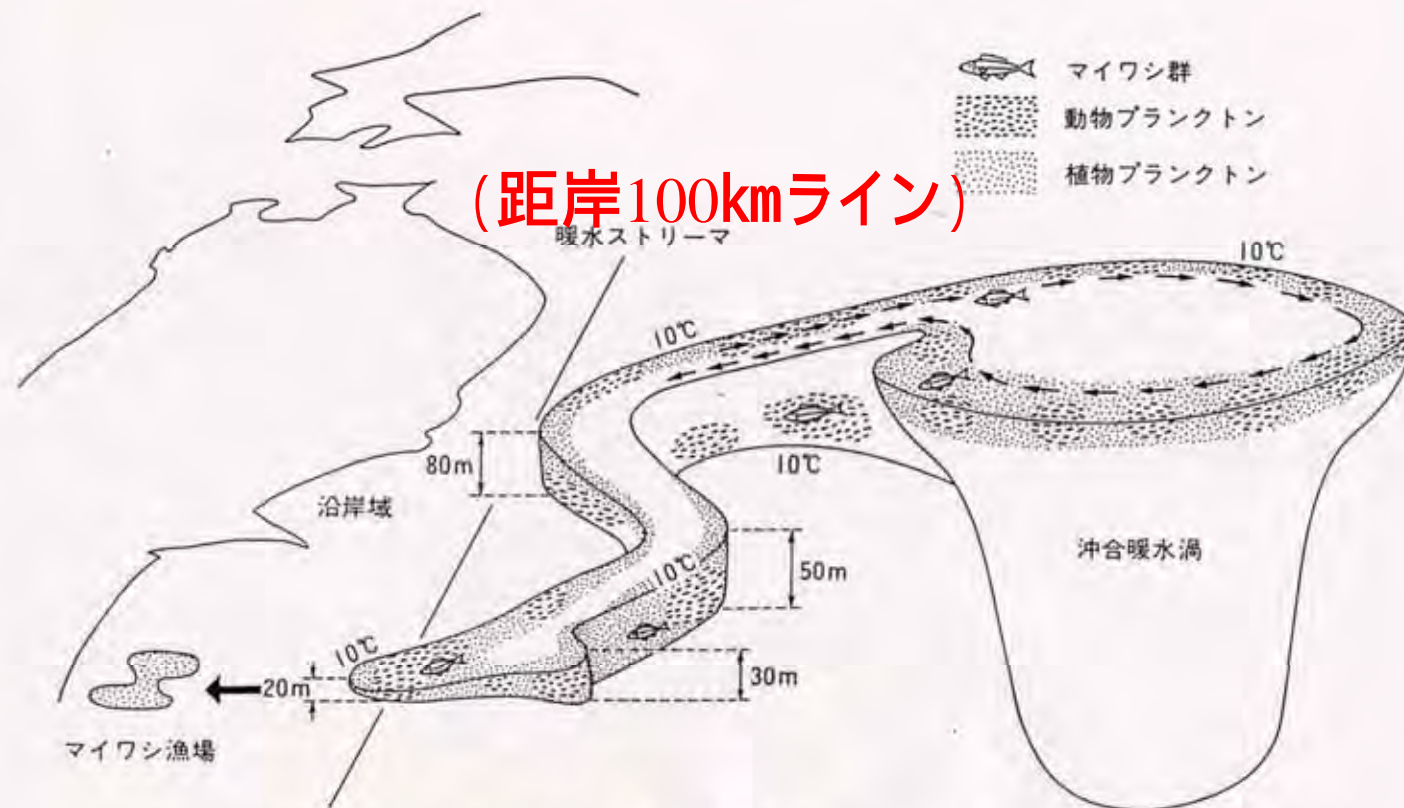


図10 暖水渦から派生する魚道（暖水ストリーマ）の概念図

（マイワシ群が沖暖水渦から沿岸へ回避するための魚道の概念図暖水渦の周辺や暖水ストリーマ（魚道）には、餌が豊富なことがわかる）

暖水塊から派生する帯状暖水(距岸100km以内へ)の概念図

(2)現状



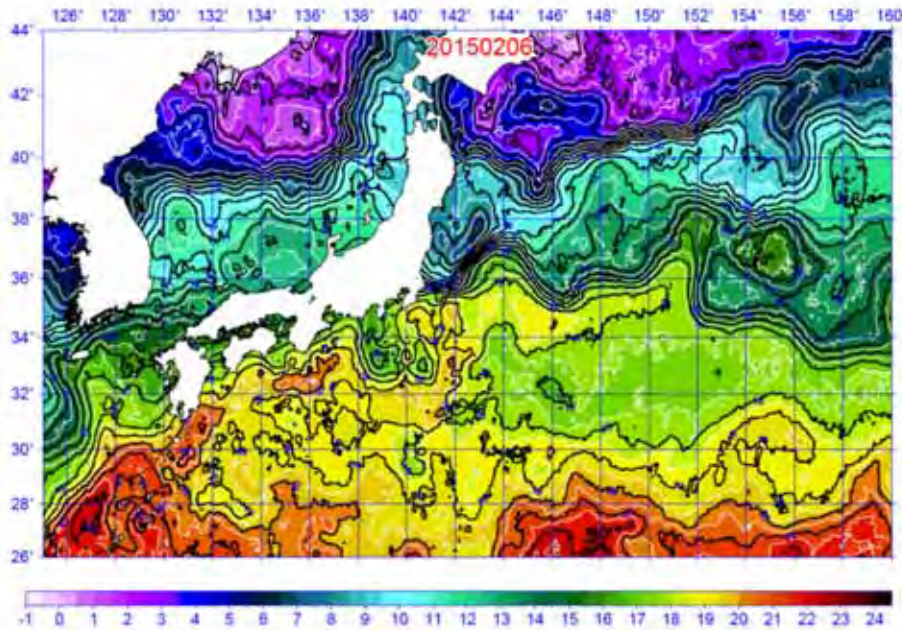
第一期水循環変動観測衛星：GCOM-W1 (しずく)

GCOM-W1: Global Change Observation Mission 1st - Water

センサ AMSR2

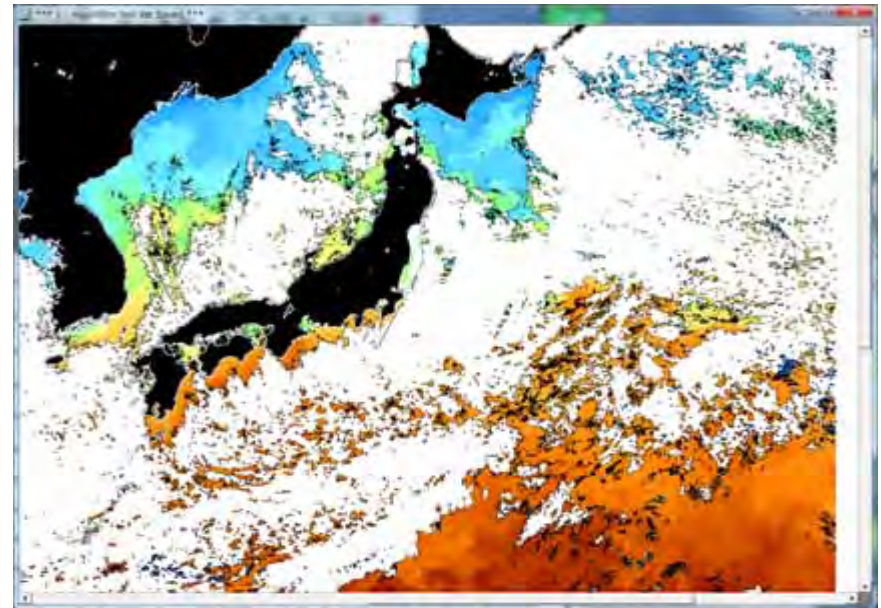


人工衛星「しずく」の優れた特徴



GCOM-W 「しずく」 をベース
に作成

※「しずく」に搭載されたセンサーAMSR-2の
マイクロ波放射計は、波長が長いことから雲を
通した観測ができる。



「NOAA」(赤外線センサー)
(白い部分は雲)

衛星しずく (AMSR2) の現状

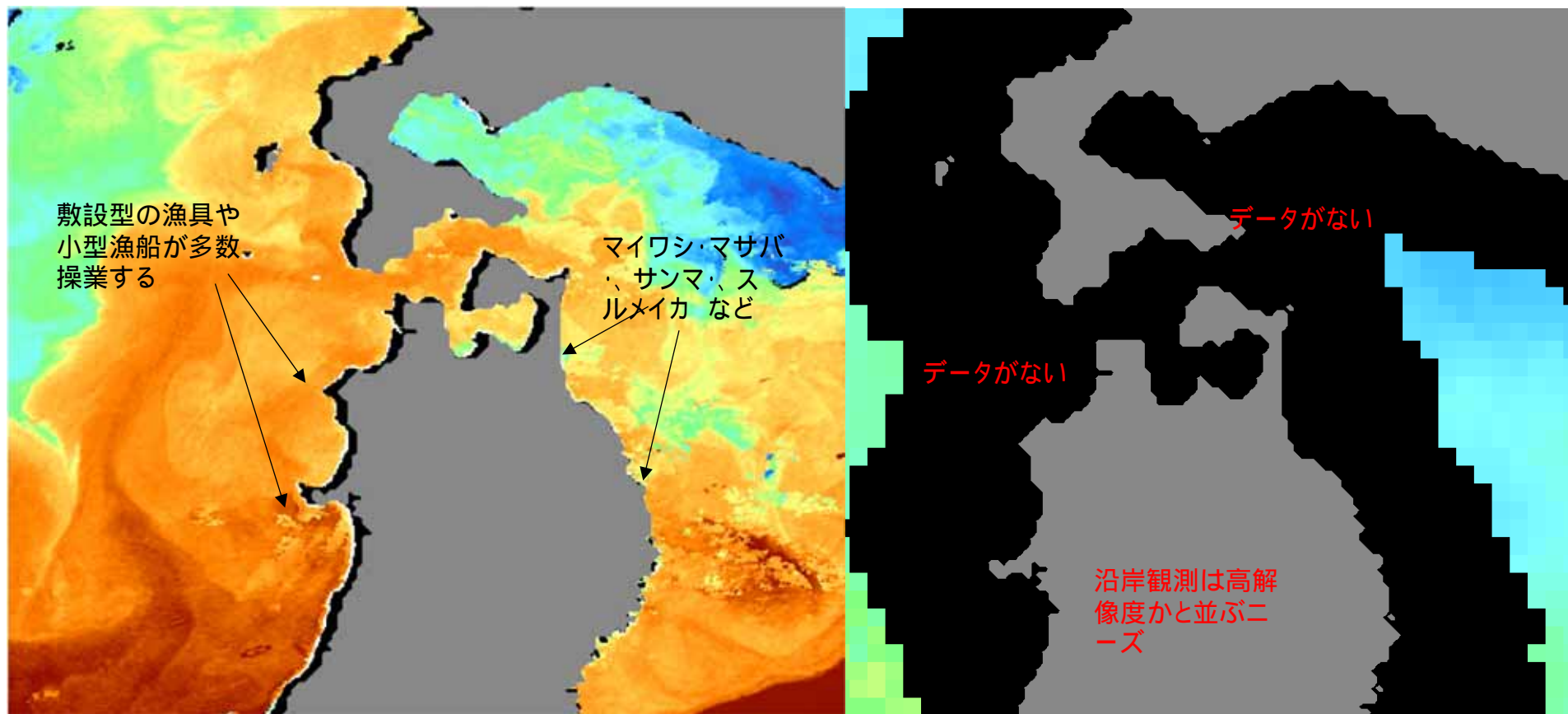
(長所): 全天候型 (日本周辺雲が多い)

温度精度

(日本の漁業者高い評価・世界でも好評)

(短所): 沿岸域 (100km以内) が観測不可能
(アンケート結果: 沿岸漁業者強い要望)

距離分解能が粗い (50km)



2016年5月12日 (距離分解能: 1km)

2016年5月12日 (AMSR2: 距離分解能50km)

開発課題(1)

沿岸域観測可能なAMSR3(仮称)の開発:

陸からの電波ノイズが強い

海面からの微弱なマイクロ波放射観測を可能

期待される貢献度:

利用可能漁船隻数:約7万2千隻

(現在 沖合利用者約700 隻)

沿岸漁業者数:約10万人

(沖合遠洋漁業者約4千人)

日本の漁業生産量の23%

(日本の漁業生産量の4分の1を占有

アンケート結果:沿岸漁業者の強い要望)